



大用小学校学校だより NO.15

# とみやま



令和7年12月4日 文責 校長 弘瀬

## 自分との闘いに挑む！(校内マラソン大会)



▲緊張の中、一斉にスタート！



▲登り坂を軽快に走る5・6年生

11月27日(木)3校時目に校内マラソン大会を行いました。朝は冷え込みましたが、風がなく走るにはちょうど良い氣候でした。走る前には少し緊張している様子の子どもたちでしたが、10時45分にホイッスルが鳴ると一斉にスタートしていきました。登り坂や下り坂がありともしんどいコースですが、昨年度よりも多くの試走ができたので、十分に持久力がついてきています。どこまで自分の頑張りができるか、自分と闘いながら最後まで走り切った子どもたちでした。走り終わったあと、自分の記録に満足している子どもや記録は出なかったけどスッキリした表情の子ども、もうちょっと走れたかもと感じている子どもなど、それぞれに様々な思いがあったのではないのでしょうか。マラソンはしんどいですが、最後まであきらめずに走る気持ちや粘り強く取り組むことなど、持久力と同時に心も鍛えてくれます。来年度につながる気持ちを大切にしたいと思います。

沿道では、たくさんの保護者や地域の皆さんが声援をおくってくださいました。おかげさまで子どもたちもひと踏ん張りできたのではないのでしょうか。マラソン当日や試走では、地元ボランティアの皆さんが毎回、各所に立って子どもたちの安全を見守ってくださいました。本当にありがとうございました。

## 卒業式にきれいな花を咲かせよう！(人権の花植え)



11月25日(月)、1・2年生が「人権の花植え」をしました。人権の花運動は、人権擁護委員さんが中心となって、主に小学校に花を配り、小学生のみんなが協力して草花を育てることによって、生命の大切さや思いやりの心、優しい心に育ってほしいと願い、毎年この時期に行われています。

この日は四万十市人権擁護委員の助村先生と市人権啓発センターの二神さんが来校しました。昨年度経験している2年生が植え方のお手本を示し、補足を助村先生にいただき1本1本丁寧に植えました。

植えたパンジーとビオラは卒業式にきれいな花を咲かせるために、1・2年生が水やりなどのお世話をしていきます。

### 表彰されています！

【令和7年度 歯・口の健康に関する

図画・ポスター並びに啓発標語コンクール】

(図画・ポスターの部)

入選 1年 山本 さん

(啓発標語の部)

佳作 4年 田野 さん

佳作 6年 古川 さん

### 入賞 おめでとう！

【四万十市・三原村小学校陸上記録会】

(5年男子走り幅跳び)

第5位 遠山 さん 記録 3m51cm

(6年男子100m)

第6位 田野 さん 記録 14秒7



## 奇跡の出会いから始まる 大切ないのち！



11月28日(金)、幡多けんみん病院の助産師 深木さんをお招きし、5・6年生が命の学習をしました。まず、助産師の仕事のくわしい内容を教えていただき、「いのちの誕生に携わる仕事」「いのちが健康に育まれるように支援する仕事」「人の人生に関わり、体と心の健康を守る仕事」であることを学びました。また、二次性徴や受精の様子についてわかりやすく話していただき、妊娠や出産は奇跡であり、一人ひとりの命や個性を大切にしてほしいと話されていました。最後に、妊婦体験や新生児人形を使ったおむつ交換体験などをさせていただきました。私たち大人も含めて、子どもたちは出産という大変な思いをしながら、1人1人が大切に育てられてきたことを実感する良い機会になったのではないのでしょうか。

### 【子どもの感想】

- ・赤ちゃんができるまでにどのようなかんじでできているのかが分からなかったけど、助産師さんが教えてくれたので知ることができて良かったです。
- ・実際に妊婦さんのおなかを体験した時、想像以上の重さと動きにくさで、とても大変だということがわかりました。
- ・あかちゃんの重さが意外に重かったし、体験をしてみて、にんぷさんってすごく大変なんだなって感じました。
- ・ぼくは男なのでぜったいにできない体験をさせていただきました。
- ・赤ちゃんのお世話体験で、赤ちゃんの持ち方が赤ちゃんの首がおれないようにや、おちないようにしたりするのがむずかしかったし、ミルクをあげる角度がむずかしかったです。
- ・赤ちゃんのお世話のオムツがえでは、新しいオムツを赤ちゃんの下にきれいに置いて、古いのを取る時に下に置いた新しいものも一緒に取ってしまったたり、なかなかきれいに新しいオムツを赤ちゃんの下に置けなくてすごく大変でした。
- ・赤ちゃんのお世話では何回もミルクをあげたり、だっこしないといけないので、お母さんの大変さがよくわかりました。
- ・助産師の仕事は、赤ちゃんを出すだけではなく、育児などの指導もしている大切な仕事だと思った。

## 昔の人の生活に興味がわきました!(考古学教室)

11月26日(水)、5・6年生が高知県立埋蔵文化財センターの出前考古学教室をしました。この日は、調査員の今田さんと坂本さんが来校し、埋蔵文化財に関する授業や勾玉づくり、火起こしなどを体験する歴史学習を行いました。

勾玉づくりでは、紙やすりでカーブを削っていくのに苦労をしました。火起こしでは、弓切り式で火種ができるまで何度も高速で上下する動作が大変でした。でも、火種ができるとそれを綿に包み込んで、火箸で挟んだ綿を思いきり振り、パッと火がついた瞬間には歓声があがりました。

### 【子どもの感想】

- ・昔の道具を見たりさわったりしたときに、道具の重さや形がわかってよかったです。
- ・勾玉づくりが一番楽しく、火おこしが一番きつかったけど、楽しかったです。
- ・火おこしは見てると簡単そうだったけど、いざやってみると難しかったです。
- ・勾玉づくりでは、形をとって丸みを入れていくのが難しかったです。また、この勉強をしたいなと思いました。
- ・ぼくが一番心に残ったことは、展示解説です。本物の土器や石包丁をさわったり見たりすることができたからです。
- ・勾玉づくりでは、ものすごくわかりやすい説明で教えてもらい、すごくきれいな勾玉ができました。

